



## 幸せな世界へ

敦賀市立気比中学校 3年  
中 村 朱 里

歩くことができる。食べることができる。遊ぶことができる。私たちはこの自由や幸せに気がついているのでしょうか。

私は先日、学校でけがをしてしまい、松葉杖を使うことになりました。松葉杖での生活は予想以上に厳しいものでした。一人で歩けず、友達に肩を借りなければなりません。荷物さえも持ってもらわなければなりません。いつもは楽しく話をしながらのぼっている階段も今の私にとっては高い壁のようです。けがをしたのは体育大会の三日前。中学校最後の体育大会は出られませんでした。最後の部活動の大会も諦めざるを得ませんでした。悔しさと悲しさであふれる涙は止まってはくれませんでした。本当に悔しかった——。そして同時に毎日歩いて、走っていられること、遊んでいられることは当たり前ではないんだ、私たちの日常はとても幸せなんだ、と気づくことができました。

「思い通りにできない。自由に歩けない。動けない……。」このような境遇の人は、私だけではないはずです。考えてみてください。この地球上には「自由」を奪われた人がいること。不安の中で暮らしている人がいること。この進歩した時代の中、世界には戦争や貧困で苦しんでいる人が、子どもが、何千人、何万人といるのです。

私たちは今日も当たり前のように学校に行き、当たり前のようにノートとペンを手に取ります。しかし、反対に、学校に行けず、家で震えている子がいること。「幸せ」という言葉を知らない子がいること。このことに気がついてますか。

幸せとはなんのでしょうか。私は、幸せとは人それぞれの考え方によって決まるものだと思います。いくらお金があってもその暮らしに満足していなければ幸せだとは言えません。反対に、不幸な境遇にいる人たちは本当に不幸なのでしょうか。もしかすると私たちが普段、何の気なしに見上げているこの空も、幸せとして、明日を生きる力として見上げている人もいるかもしれません。いつも通る道にポツンと咲いた小さなこの花も、

誰かを支え、見守っているのかもしれませんが。幸せとは人それぞれが見いだしていくものなのです。

奇跡の星。この地球。この星に生まれてこられたこと。今、自由を手にかけていること。それこそがまさに奇跡です。それなのに、私たちは自由を奪い合っているのです。これが本当に必要なことだと思いますか。幸せであるはずの、幸せを感じられるはずの私たちに不自由なんて言葉は必要ありません。

この世界は変えられる——。いや、きっと変えてみせる——。全ての人が安心して眠れる夜を創るために。自由な世界を創るために。

あなたは今ある自由に気がついていませんか。当たり前の日常に幸せを感じられていますか。日常の幸せに感謝しながら、自分らしく幸せを追い求め続けていきましょう。この世界が幸せであふれていてほしいから——。